



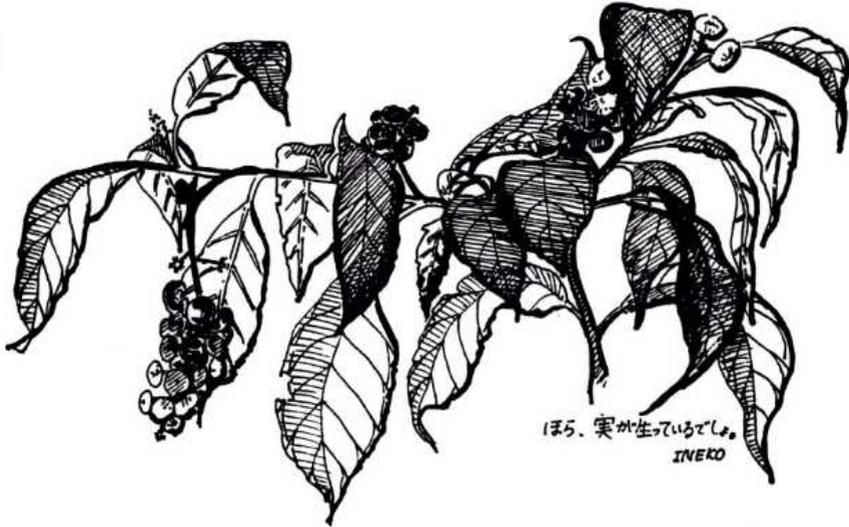
2002年 10月15日発行(隔月刊)



う 羽 化 か

2002年10月
第34号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
 編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

E i b r k wバージョン3.00について	i
東洋医学について (6) (小池上 惇)	1
連載「点字から識字までの距離」(31) (山内 薫)	3
点字の読みづらさと漢点字の触読について (18) (岡田 健嗣)	6
ご報告とご案内	11
漢文のページ	15
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(32)	17
平野久美子と短歌鑑賞	23

東洋医学について(六)

小池上 惇

六 病 因

東洋医学では、病は邪氣が進入したときや人体の正氣が虚弱になったときに起こると考えられています。邪氣とは病氣の原因となるもの、正氣とは体を邪氣から守る抵抗力のようなものです。

東洋医学では病氣の原因を外因、内因、不内外因に分けています。



(一) 外 因



外から体を襲うもので、六淫と瘧氣があります。

西洋医学では、外因として栄養素の供給障害、物理学的作用(温度、光線、機械的作用、電気的作用)、化学的作用(中毒)、生物学的作用(細菌、ウイルス、リケツチア、寄生虫など)など広

い範囲に渡っています。東洋医学では、主に気候の変化を外因と考えています。

ア 六氣と六淫

六氣とは気象の変化をいい、これには風、寒、暑、湿、燥、火があります。この六氣が人体の適応能力を超えて作用したものが六淫です。気候の変化が激しい場合や人体の抵抗力が衰えた場合、六氣が六淫となるわけです。

① 六氣と季節との関係

春：風 夏：暑 土用：湿
秋：燥 冬：寒

東洋医学でいう土用とは夏の盛り、すなわち盛夏のことです。

② 六淫と五臓との関係

風：肝 暑：心 湿：脾
燥：肺 寒：腎

これは、五臓の色体表により六淫と五臓の関係を述べたものです。すなわち、風は肝を侵し、暑は心を侵し、湿は脾を侵し、燥は肺を侵し、寒は腎を侵すという事です。西洋医学的に考えると、風は肺を侵すような気がしますが、東洋医学で

は、この考え方で診断や治療が行われています。

③ 六淫と疾病

風病：発病が急で、変化が早い。痙攣や痛みなどが起こる。

暑病：熱によって起こる。発熱・口渴などがみられる。

湿病：経過が長く、症状がとれにくい。体が重だるい。

燥病：呼吸器が侵され鼻孔が乾燥し、唇が割れる。

寒病：体が冷え、下痢や腹痛を起こす。

六淫のうち、最も人体を侵しやすいのは風で、俗に風は百病の長と呼ばれています。西洋医学でも、風邪は万病のもとといわれていますが、どこか共通するところがあるようです。

イ 瘴氣（疫癘の氣）

伝染病の原因となる強い氣。現代医学の病原体に当たります。



(二) 内因



西洋医学では、内因とは人体が有する病気に罹

りやすい性質で、これには素因、体質、免疫異常、遺伝、染色体異常、内分泌障害などがあると考えられています。これに対して東洋医学では、感情の変化を内因としています。

七情：これには、怒、喜、思、憂、悲、

恐、驚があります。

これらの感情が激しくなると五臓に障害を与えるとされています。怒りすぎれば肝を破り、喜びすぎれば心を破り、思いすぎれば脾を破り、憂いすぎれば肺を破り、恐れすぎれば腎を破ると言われています。なお、悲しみは肺を襲い、驚きは心を襲うと言われています。このように、東洋医学では精神的影響を重要視し、心身一如の医学と言われています。西洋医学においても、最近疾病と精神との関係が見直されつつあります。



(三) 不内外因



内因にも外因にも該当しない病因で、これには飲食、労倦、房事過度、外傷などがあります。

ア 飲食

暴飲暴食、有害な食品の摂取、偏



食など食生活の不摂生のことです。現代の日本でも、問題になっている肥満や高血圧も「飲食」が原因と思われれます。

イ 労 倦

慢性の疲労のことです。過労による倦怠感、ウイルスによると考えられる慢性疲労症候群なども、東洋医学的には「労倦」によるものと考えられます。

ウ 房事過度

性生活の不摂生のことです。

その他、外傷や寄生虫なども不内外因に属します。西洋医学的に見ると、外因に属するものが多いようですが、これは、東洋医学では外因を気候の変化とごく一部の病原体に限定したためと思われれます。

今回は、東洋医学における証について書きたいと思えます。



点字から識字までの距離(三二)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)



言葉と身体(四)

このところ出版される脳と言語に関する本の中で特徴的なのは、その多くが手話を自然言語として扱っていることである。手話については、この連載でも何度か取りあげたことがあるが、言葉と身体という観点からもう一度取りあげてみたいと思う。

ごく最近刊行された中公新書『言語の脳科学』(酒井邦嘉、中央公論社、二〇〇二年七月刊)の中でも「言語のサイエンスの主要な対象は、音声言語と手話である。」と書かれており、言語の定義を「心の一部として人間に備わった生得的な能力であって、文法規則の一定の順序に従って言語要素(音声・手話・文字など)を並べることで意味を表現し伝達できるシステムである」と規定している。

にもかかわらず「日本にある百校を超えるろう学校

のうち、日本手話を教えているのは、ほんのわずか（四校）しかないという。手話の代わりに何を教えるのかという点、『口話法』と呼ばれる、音声言語を通じて意思伝達を行う方法である。これは読唇術（リップリーディング）と発声の訓練であり、口話法を徹底させるために手話の使用を禁止している学校が、驚くことに今でも存在する。」（同書）

一八八〇年世界ろう教育者会議で口話法の採用が決議され、自然言語である手話が排除され、ろう者の教育水準と識字能力の低下を招いてから実に一世紀以上を経過して、一九九一年に東京で開催された第十一回世界ろう者会議で次のような決議がなされた。

「子供の言語の発達にとつて、生後三年間ほもつとも大切な時期である。したがって、就学前の子供には手話を使う環境で成長する機会を与え、健聴の親には手話の使用についてカウンセリング・サービスタと指導を提
供しなければならぬ。あらゆる国々で、子供の人権に関する国連児童憲章がろう児にも適用されることを認識すべきである」（第一項）

しかし、未だに日本のろう教育において手話がことばとしてほとんど認められていないという事実は、漢点字が盲教育の中でまったく無視され続けていることとどこか似てないだろうか。

手話に関する脳の

研究は始まったばかりというが、手話の脳での処理は、基本的に音声言語と変わらないと考えられている。例えば手話でも左脳の損傷で失語症が生じたり、左脳を麻痺すると音声言語だけではなく手話の失語も同時に生じたという報告もある。手話のネイティブ・サイナーが手話を見ている時に側頭葉上部にある聴覚野が活動するというfMRI（ポジトロン（陽電子）断層画像撮影法・生体内の陽電子放射トレーサーの局部濃度分布を算出して断層画像にする技術で、ブドウ糖代謝量、脳血流量、血液量、酸素代謝量などを測定する）の結果も報告されている。

これは丁度視覚障害者が点字を触読する際に一時視覚野を含む後頭葉が賦活されることと同じで、脳の可塑性を示したものである。「長期にわたる視覚入力
の遮断にもかかわらず、視角野が機能性を保っていること、また、触覚弁別処理が、その本来の入力をうけ



お話会で手遊びをしているところ

る領域以外のところ(視覚野)で処理されうることが示された。」という。(『脳の可塑性と進化』認知科学の新展開一認知発達と進化』頁一三九〜一四一 岩波書店 二〇〇一所収)

さて、手話は身振りとどう係わるのだろうか。これも昨年翻訳された『子供は言語をどう獲得するのか』(スーザン・E・フォスター II コーエン著 今井邦彦訳 岩波書店)によって見てみたい。赤ちゃんは単語を獲得する以前には身振りなどを用いて伝達を行うが、「言語が伝達の役割を担うようになると、非言語体系の方は言語に付随する随意的な(必須ではない)役を主として務めるようになる。だが、身振りの方が言語に時間的に先行するということは、身振りというものが言語の発達に不可避的に先行するものであるということの意味するのだろうか?」

著者は「身振りが言語発達の不可避的先行物でないことはほとんど確実である」と結論づけている。その証拠としてあげられているのが、一つは脳性麻痺などが原因で、自分の筋肉を身振りにも音声産出にも使えない子供のケースで、クリストファー・ノウランという足の指でタイプライターを操作して書く作家の自伝から、こうした子どもたちの



言語獲得も遅滞なく進行するといっている。そしてもう一つの証拠として挙げられているのが、手話と身振りの関係である。ここでは以前にも『子どもはことばをからだで覚える』のところで紹介したローラ・ペティトの研究を援用している。それによると「手話言語獲得以前に用いる身振りの起こり方は、音声言語を獲得する健聴者のその場合とまったく同一であり、音声言語が身振りから生ずるわけではないのと同様、言語の発生とは直接のつながりを持たない。(中略)アメリカ人話では、身振りの場合と同じように、「は自分自身を指すことで表され、 λ 、 σ 、 ρ は相手を指すことで表される。ところが、初期の、身振りをあくまで身振りとして使う時期が過ぎると、この仕草は聾の子供のレパートリーからいったん姿を消し、そのあと純粹の手話単語として再登場する。」この仕草が本格的な手話単語として使われるようになった時、子どもたちは λ 、 σ 、 ρ を意図しているのに自分を指さしてしまったり、「のつもりで λ 、 σ 、 ρ の手話単語を使うという誤りを犯す。これは健聴な子供が音声言語を獲得する過程でも起こる間違い(例えば「と ρ 」を互いに入れ替えて使う)であり、身振りの体系と言語の体系は互いに別個の体系であることの明白な証拠になると言っている。この非言語体系は言語体系による役割引継がととのうまで伝達の

役割を担っているが、非言語体系がそのまま言語体系に移行するわけではない。

「非言語体系と比べた場合、言語は複雑度がより高い構造を持っており、伝達が行われている場所・時点を超越する力がより大きく、意味とそれを表す形との関係の恣意性が言語以前の体系（および人間以外の種が使うことの出来る体系）の場合よりも高いのだ。しかし、言語以前の体系は、言語ではないとはいえ、人間の伝達の発達の重要な一部を成している。言語以前の体系があるからこそ、子供は言語を使えるようになる前から伝達を行うことができ、自分が属する社会的・物理的世界に入っていくことが可能になるのである。それだけではなく、子供が行いうる単純な伝達でさえも、他者から反応を引き出すことができ、子供自身に伝達とは何のためにあるかを教えてくれ、自分の必要を満たしてくれ、大人からの話しかけを通じた言語との接触の機会を増やしてくれるのである。」としている。

著者は言語獲得の論議の中で「言語」という述語を専門用語として使う限り、身振りなどの非言語体系を「言語」と見なしてはならないという学術的な必要性から以上のような論を展開しているのだが、少なくとも言語を伝達の手段として使えるようになるためには、非言語体系によるコミュニケーションが不可欠であ

り、身体の動きもまた不可欠ではないかと思える。先の証拠の一つとして挙げられている、自分の筋肉を身振りにも音声産出にも使えない子供のケースでも、少なくとも心肺機能など身体は動いている訳であるし、もしかすると脳の可塑性から、手や足などの運動にしても脳の中で仮想されているのではないかと思うのだが……。



点字の読みづらさと

漢点字の触読について(十八)

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

七 点字の漢字には二つの体系がある？ (承前)

【本章では前々回から、再度我が国の視覚障害者にとつての「点字」が、これまでいかなるものであったか、また、現在どのような位置付けられているかを考えて来ました。

前二回では、漢点字の創案者の川上泰一先生のお

考えを振り返ってみました。先生のお考えの基本は、一つに「漢字」を如何にして点字で表現するかにありました。次に、如何に触読に耐え得る点字にできるかという点に検討を進められました。

先生は、漢字の基本概念を「六書」に求められ、触読を容易にするために「八点」点字のパターンを採用することに踏み切られました。「六書」からは漢点字の「基本文字」の概念を導き、また「八点」の採用によって、日本語の標準的な表記法である「漢字仮名交じり文」を、触読文字で表現することに初めて成功されたのでした。

このようにして私たちが現在使用している「漢点字」が誕生して、視覚障害者の知的生活に、一条の光を与えて下さいました。

今回は、「漢点字」と並んで「二つの点字の漢字」として流布されているもう一方の「六点漢字」についてご紹介します。そしてこれら二者が、同等の重みを持つて理解されている理由について、考えてみたいと思います。】

六点漢字

①六点漢字の生い立ち… 「六点漢字」は、元筑波大

附属盲学校教諭、長谷川貞夫氏が考案された点字符号です。漢点字の発表から数年遅れてのことでした。

氏は、一九七〇年代に入って目覚ましく発達したコンピュータが、視覚障害者の日常生活に役立たないものかとお考えになって、視覚障害者にとって最も困難な、いや当時は不可能と思われていた「文字を書く」ことに挑戦してみようと決意されたのでした。

現在とは異なって、今からほんの少し前までは、視覚障害者が文字を書くこと、文章を編むということとは、そのまま周囲の晴眼者の方に、代筆をお願いすることでした。英文をタイプライターのブラインド・タッチで打てる人はいましたが、我が国の言葉で、その文章を、自らの手で書ける人は皆無でした。



当時のコンピュータというのは、現在のパソコンのまだ姿を現していない時期で、大変特殊な機械でした。今日と異なってコンピュータには、専ら計算機としての機能が求められて、文字を書くことは、極めて二義的に受け取られていました。世の中にワード・プロセッサが登場するまでに、約十年待た

なければならぬことである。

そんなころ、氏は、視覚障害者の夢である独力で
「文字を書く」ことを、コンピューターの力を借り
て実現できるのではと考えられたのでした。

当時は現在のようないくつかの視覚障害者が使用するに
は、専用のソフトウェアの開発が必要でした。氏は、
コンピュータのキーボードのキーに、点字の六
つの点を当てて、点字のタイプライター（ブレイラ
ー）の要領でキー入力すれば、点字を打つように、
墨字を書くことができるのではないかと、思いつかれ
たのでした。これが、現在の点字キー入力の発端で
す。

この点字キー入力の配列は、一の点（●）を「
二の点（○）を「 ρ 」、三の点（●）を「 σ 」、四の点
（●）を「 π 」、五の点（●）を「 κ 」、六の点（●）を
「 ι 」と決めました。一の点（●）に左手の人差し
指、四の点（●）に右手の人差し指を置いて、二の
点（ ρ ）と五の点（ κ ）に中指、三の点（ σ ）と六
の点（ ι ）に薬指を置いて、点字の符号に従って、
同時にキーを押すことにされました。先ずカナの点
字符号を打ち込んで、それに該当する墨字のカナ文
字に変換できるようにソフトウェアを設定しました。

本来キーボードには、複数のキーを同時に押すと

いうコンセプトはありませ
んが、六つのキーを一緒
に押しても、何故かコン
ピューターがうまく受け
止めてくれて、カナの
「め（●●●）」を書くこと
ができたのでした。

幾つか例を挙げてみま
しょう。〈表参照〉

このようにコンピューター
のキーボードを点字式
に同時入力することで、
カナの文字が自力で書け
たことは、氏にとって、
今後に光明を見る思い
だったに違いありません。

氏は、若年のころは弱
視でしたので、漢字の知
識をお持ちでした。そこ
でこのカナ文字の成功を
生かして、漢字をも書け

一 表 一

f ●● あ	f d ●● い	f j ●● う	f d j ●● え	d j ●● お
f l ●● か	f k l ●● さ	f s k ●● た	f s ●● な	f s l ●● は
f s k l ●● ま	s j ●● や	f k ●● ら	s ●● わ	

ないかとお考えになったのでした。

氏は、基本的にはカナ文字を書いたのと同様の方法で漢字も書けるとお考えになって、カナ文字を組み合わせて漢字の入力に結び付けることを選択されたのでした。

これが〈六点漢字〉の誕生です。

② 六点漢字の仕組み… 〈六点漢字〉は、このようにして、コンピュータに点字キー入力して文字を出させようという発想から出発しました。カナ文字は、カナ点字符号の方式でキー入力することで出力させることができましたが、これは先人・石川倉次先生のお作りになったままを利用したものでした。漢字となるとそうは行きません。氏は、どのようにして漢字を出力させたのでしょうか？

氏のお考えには、カナ点字入力でカナ文字が出力できたことが、深く根を張っていました。「カナ文字」とは、日本語の〈音〉を表す表音文字です。「漢字」は何を表す文字でしょうか？ 氏は、「漢字」も〈読み〉という〈音〉を表す文字とお考えになりました。「漢字」の読みには二つある、〈音〉と〈訓〉です。

〈音〉は、漢字がもともと中国の文字であったものが日本に渡って来て、当初は中国で読まれていた

発音がそのまま使われていたことに由来する〈読み〉です。しかし、中国で使われている発音は中国語の発音、それも現代から見ると古代の中国語の発音でした。漢字は、当時の日本の貴族の間に徐々に浸透して行きましたが、それに従い、日本人の発音に馴染んだ、つまり日本語化した発音に変わって行きました。それが千数百年経った現在にまで伝わって、漢字が日本語を表す文字として、他に席を譲れない文字になったものです。このように日本語化した漢字音は、しかしその数が極めて少ないものになったのも事実で、そのためにいわゆる同音異語が多数発生することになりました。

もう一つの読みである〈訓〉は、漢字を、日本語の読みに当てたもので、当時の人が漢字を日本の文字にしようとした苦心の作です。

〈六点漢字〉は、この〈音〉をベースに、〈訓〉で漢字を区別することにしたものです。どのようにして作られたか、例を挙げてみましょう。（以下は、東京点字出版所版『点線文字 常用漢字編』を参考にしました。）

山



||

山がヤマのヤ。

山がサン、

川



||

川がカワのカ。

川がセン、



それではこの三つの漢字が、六点漢字ではどのように表されるかを、見てみましょう。

観	 		 	
看	 		 	
監	 		 	

ここで分かることは、**カ**カン**ク**という音は大変沢山あるため、点字符号が「**|||**」と二つ用意されていることです。

また、**観**と**看**の訓に当たる点字符号が「**|||ニ**」と「**|||ナ**」となっていることで、これを見ただけでは、その理由を理解することはできないことです。〈**監**〉の訓の符号「**|||ラ**」だけが、辛うじて部首の「**皿**(サラ)」に由来しているのかな、と思わされるだけです。

実は**カ**カン**ク**の音の点字符号は、もう一つ用意されています。〈**寛**〉の字の六点漢字は「**|||**」です。「**|||**は**ン**」ですので、「**カ**」の音だけでは足りずに、「**ン**」の音も借りたのでしよう。また、訓の符号は「**|||ウ**」ですので、これも部首の「**ウ冠**」を表しているように思われます。(つづく)

(次回は、「二つの点字の漢字」を説明する予定です。)

「報告とご案内」


**横浜ボランティア・フェスティバルへ
お出かけ下さい**

昨年神奈川県で催された「全国ボランティア・フェスティバル」の成功を受けて、今年から、横浜市社会福祉協議会・ボランティア部会の主催で、「横浜ボランティア・フェスティバル」が開催されることになりました。

パネルと資料による、漢点字と本会の活動のご紹介、とりわけパソコンを操作しての漢点字訳の体験コーナーなど、計画を練っております。

皆様どうぞお立ち寄り下さい。



日時：二〇〇二年十一月二十三日(土・勤労感

謝の日) AM10:00~PM16:00

場所：横浜市健康福祉総合センター(市営地下鉄・

JR根岸線・東急東横線、桜木町駅下車)。

電話 045-201-8620

(市社協ボランティア・センター)へ。

ホームページのアドレスが変わりました

再々ではございますが、プロバイダーの都合で、本会のホームページのアドレスが、以下のように変わりました。

URL : <http://ukanokai-hp.hp.infoseek.co.jp/>

E I B R K W e r l i l ' 002c5N

既に視覚障害者の皆様にはご案内済みですが、漢点字変換・編集・点字プリンターおよびピンディスプレイへの送出力用ソフトウェアE I B R K W が、大幅にバージョンアップしました。今回特に力を入れたのは、視覚障害者の皆様に、独力で、快適にご利用いただくことでした。とりわけ文書を作成するという機能が、ピンディスプレイの表示と音声を頼りに、大変充実しました。また、ボラントイアの皆様にも、エディタとしての機能の充実で、校正・編集の作業が、大変快適に行えるものと存じます。

価格は一万円です。(E I B ファイル専用プログラムE I B R K W は無料です。)

詳細は、本会までお問い合わせ下さい。



E I B ファイルからBMTファイルへの変換について

『うか』三十二号テープ版の発行とともに発表しました、漢点字データのファイル、E I B ファイルには、多くの皆様から賞賛のお声を頂戴致しました。その中に特に多かったのが、ブレイル・メモB M I 6のメモリーに、E I B ファイルのデータを送り込んで、外出先や乗り物の中でも、読書ができないものかというご要望でした。

B M I 6の開発元である(株)K G S 社にお尋ねしたところ、著作権を保護するためのファイル・プロテクトは、ハードウェアの容量に限界があつて、不可能であることが分かりました。

そこで本会では、以下のコンセプトの元に、ソフトウェアの開発を進めたいと考えます。

① 著作権の切れたデータや、著作権が放棄されたデータ、あるいは、教材として学校で使用されるデータなど、著作権・版権の制約を受けないデータに関しては、漢点字データをB M I 6のメモリーへ入れることは必要である。

② B M I 6のメモリーへ漢点字データを送る作業は、E I B R K W で行う。

③ E I B R K W のユーザーの皆様には、ユーザー登録をお願いして、著作権の保全へのご協力をお願いする。



EIBRDICWG検索について

EIBRDICWは、熟語の読みを検索することを目的とした電子辞典です。MS-DOS版のEIBRDICが、WINDOWS上で使用できるようになったものです。まだ単体では完成しておりませんが、EIBKRW、及びEIBRKW上からの検索が可能になりました。

これまで熟語の読みの充実に努めて参りましたが、今日、この辞典の当初の目標は、かなりのところ実現できたように思います。そこで、今後は「読み」ばかりでなく、辞典として本来求められる「意味」の集録にも力を傾注して行く所存です。ゆくゆくは、「漢字及び熟語電子簡易辞典」の形にまで育てることができればと考えております。現在登録されている数は二二〇・一三七レコードです。

EIBRDICWの機能は、以下の通りです。

①EIBKRW、及びEIBRKWからの検索：
EIBKRWを使用して読書しているとき、あるいはEIBRKWで漢点字文、ないしは墨字文を編集しているとき、文字や熟語を本文からクリップして、EIBRDICWの検索にかけることができます。検索の結果は、ピンディスプレイと音声で表示されます。〈読

み〉の表示は、総てカナ表示です。

②結果のスクリーン：EIBRDICWで検索された結果は、〈漢字〉も〈読み〉も、WINDOWSのクリップ・ボードにコピーすることができます。

③結果の貼り付け(一)：クリップ・ボードにコピーされた検索結果の文字列は、EIBKRWの編集画面に貼り付けることができます。キー入力からだけでなく、より情報量の多いこの辞典から、より適切な文字を選択して、使用することができます。

④結果の貼り付け(二)：同様に、WORDやWZなど、一般の文書作成プログラムの画面にも、結果を貼り付けることができます。大きな編集では、このようなソフトウェアを利用することが多いと思われる。そのためこの機能は、熟練した皆さまにとつて、大変便利だと、喜んでいただけるものと存じます。

⑤結果の貼り付け(三)：クリップ・ボードにコピーされた検索結果の〈読み〉を、『広辞苑』など、お手持ちの電子辞典の検索にかけることができます。それによつて、より深く語句の意味を知ることができます。

⑥結果の貼り付け(四)：クリップ・ボードにコピーされた漢字の文字列をWZなどに貼り付けて、再びその中の一文字、あるいは少数個の文字列(熟語)を、クリップ・ボードに再コピーして、EIBRDICWの検索にか

けることができます。

このようにして、熟語の（読み）に始まって、熟語を構成する漢字の（意味）に至るまでの、複合的な検索が可能になりました。

より多層、より多重な検索が求められております。

先ず基本的な情報を、このようにして手に入れて、その後色々な方法を駆使しながら知識を深めて行ければと考えております。

以上、ご希望をお待ち申し上げます。

羽化文庫について

CD-ROMファイルで構成する文庫を開始致します。本会で製作した漢点字書から、以下の書籍をCD-ROMファイルで、無料でご提供致します。ご希望をお待ちしております。

E-MAIL : takeshi-okada@h2.dion.ne.jp



羽化文庫目録

「はり師、きゆう師、あん摩・マッサージ・指圧師国家試験全科の要点」 医歯薬出版株式会社（一九九五）

「あん摩・マッサージ・指圧師、はり、きゆう師

国家試験」（第一～五回）

「やさしい免疫の話」朝日新聞社 編

朝日新聞社（一九九七～一九九八）

「東洋医学臨床論（はりきゆう編）」

社団法人・東洋療法学校協会 編

医道の日本社（一九九八）

「現代詩の鑑賞一〇一」大岡 信 編

新書館（一九九六）

「短歌・俳句・川柳 一〇一年」一八九二～一九九二

新潮一〇月臨時増刊、新潮社（一九九三）

「百年の文学、新潮名作選」新潮七月臨時増刊

新潮社（一九九六）

「藤村詩抄」島崎 藤村 自薦

岩波書店（一九九五）

「作歌の現場」佐々木 幸綱 著

角川書店（一九八二）

「母なる色」志村 ふくみ 著 求龍堂（一九九九）

「聊斎志異（上、下）」常石 茂 訳 平凡社

「新々百人一首」丸谷 才一 著

新潮社（一九九九）

「日本語練習帳」大野 晋 著 岩波書店（一九九八）

「微笑笑俳句コレクション」江國 滋 著

実業之日本社（一九九四）

【青空文庫】より、
「三四郎、門・窓・ろ・我輩は猫である」夏目 漱石 著

漢文のページ

仁を問う（『論語』顔淵がんえんより）

仲弓問仁。子曰、

出門如見大賓、使

民如承大祭。己所

不欲、勿施於人。在

邦無怨、在家無怨。

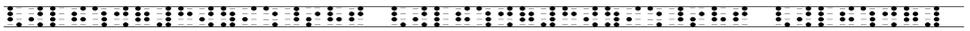
仲弓ちゆうきゆうを問う。子の曰のたまわく、門を出いでては大賓だいひんを見るが如くし、民を使うには大祭に承つかえまつるが如くす。己れの欲せざる所は人に施すこと勿かれ。邦くにに在りても怨うらみ無く、家に在りても怨うらみ無し。

仲弓が仁のことをおたずねした。先生はいわれた、「家の外で「人にあうときに」は大切な客にあうかのようにし、人民を使うときには大切な祭を行なうかのようにし、自分の望まないことは人にしむけないようにし、国に在りても怨うらまれることがなく、家いへに在りても怨うらまれることがない。」



この篇は「顔淵問仁」で始まり、上記の仲弓の問の章が続く。顔淵の問に対しては孔子は、「克つ己復たが禮れい爲な仁」（己かに克かちて禮れいに復たがるを仁と爲なす。）と答えている。顔淵・仲弓は、ともに孔子の門人。

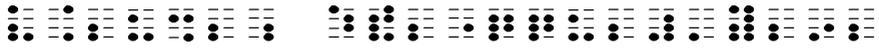
※ 漢文訓読と通釈は、金谷治氏の『論語』（岩波文庫）によりました。



仲 弓 問フ 仁ヲ。 子ノ



曰ハク、 出デテハ 門ヲ



如クシ 見ルガ 大 賓



ヲ、 使フニハ 民ヲ 如ク



ス 承ヘマツルガ 大 祭



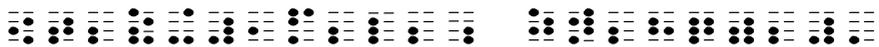
ニ。 己レノ 所ハ 不ル



欲セ 勿カレ 施ス



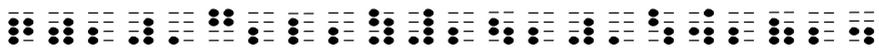
コト 於 人ニ、 在リテモ



邦ニ 無ク 怨ミ 在リ



テモ 家ニ 無シ 怨ミ。





漢点字ってどんな字？ 32

十干と十二支 〈2〉

みずのえ 壬 <small>ジン</small>	つちのえ 戊 <small>ボ</small>	きのえ 甲 <small>コウ</small>	十 干 (じっかん)
みずのと 癸 <small>キ</small>	つちのと 己 <small>キ</small>	きのと 乙 <small>オツ</small>	
	かのえ 庚 <small>コウ</small>	ひのえ 丙 <small>ヘイ</small>	
	かのと 辛 <small>シン</small>	ひのと 丁 <small>テイ</small>	




未来ちゃん
だから「からい」と読
むことの多い「辛」以
外は、みんな漢数字の
印がついているのね。

志朗君
十干って漢数字の仲間
だったんだね。



おねえさん
前回は一回お休みして
しまったけど、十干と
十二支の話をもう少し
しましょう。

志

日本の標準時では、東
経一三五度(明石市)の
子午線上に太陽が来る
(南中)時が正午だよ。



未

子午線の子は北、午は
南で、地球の北と南を
結ぶ線をいう
のね。

北||子

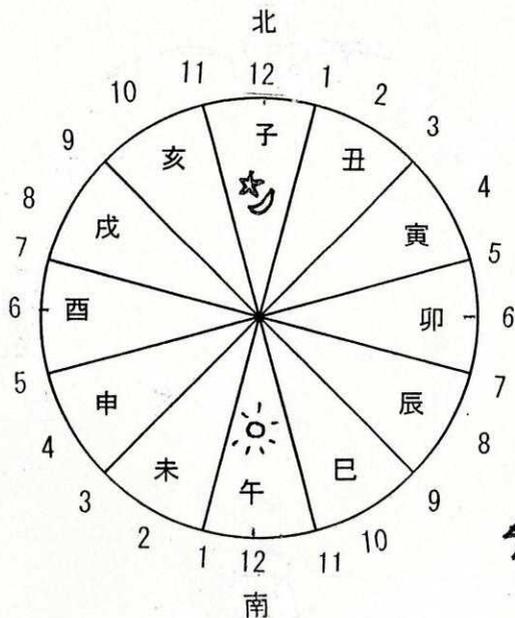
お

子午線も方角と関係
あるのかしら？

志

十干に十二支を重ねて
暦を作ったり、十二支
で方角をあらわしたり
したんだね。

志 十二支は方位だけでなく、時刻もあらわすんだよ。



未 子の刻(ねのこく)は夜中の十二時頃、午の刻(うまのこく)はお昼の十二時頃ね。
 お 十一時頃から一時頃までの二時間の時刻も指しているのよ。

お 今頃なんでこんな古い字を?と
 思うかもしれないけど、実は普段よく使う字の旁になっているものが多いのよ。
 どんな字があるか探してみて。

未 戊の付く字なんてあるかしら?

志 茂は、くさかんむりに戊だよ。

未 成功の成も戊に似てるかも。

志 任務の任は、にんべんに壬。

未 あ、柳つてきへんに卯じゃない?

志 まだある、酉と己で配るだ!

お 十干と十二支の中には、旁になる字や、子や未のように普段よく使われる字も含まれているから、近似文字といっしょに整理してみましよう。

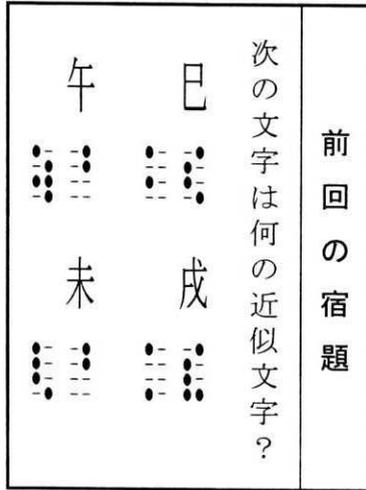
癸 ☵ ☵	壬 ☵ ☵	辛 ☷ ☷	庚 ☷ ☷	己 ☷ ☷	戊 ☷ ☷	十干
キ みずのと	ジン みずのえ	から シンかのと いっらい	コウ かのえ	巳 イのみ すでに 巳 シみ (近似文字は)	コキ つちのと おのれ 成 ジュツ いぬ (近似文字は) ボ つちのえ	音・訓 近似文字
葵 ☵ ☵	任 ☷ ☷	宰 ☷ ☷	 (庚申塚)	 已然形の	紀 記 茂 成	旁の例 他

戌 ☷ ☷	酉 ☷ ☷	未 ☷ ☷	午 ☷ ☷	巳 ☷ ☷	卯 ☷ ☷	子 ☷ ☷	十二支
ジュツ いぬ (戌の近似文字)	ユウ とり (第二基本文字)	ミ ひつじ いまだ (木の近似文字)	ゴ うま (牛の近似文字)	シ み(へび) (己の近似文字)	ボウ う(うさぎ)	シ ね(ねずみ) こ (第一基本文字)	音・訓 近似文字
成 ジュ まもる とは 別字	配 	未 然形の 「未」	許 	祀 	柳 	甲子 もの 初めの意 ① (甲子園球場)	旁の例 他

お
と
こ
ろ
で
、
近
似
文
字
の
宿
題
が
あ
っ
た
の
覚
え
て
る
？

前
回
の
宿
題

次
の
文
字
は
何
の
近
似
文
字
？



右
ペ
ー
ジ
の
表
を
見
れ
ば
答
え
は
簡
単
ね



次
回
の
予
告

お
次
回
か
ら
ど
う
な
る
の
か
し
ら
？

未
・
志
え
っ
、
な
に
っ
！

未
こ
れ
か
ら
が
本
番
で
し
よ
う
？

志
た
く
さ
ん
あ
る
か
ら
ね
！

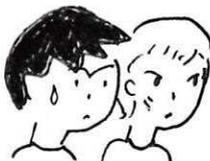
お
何
が
？

未
と
ぼ
け
ち
や
い
け
ま
せ
ん
！

志
そ
う
そ
う
、
こ
れ
か
ら
い
ろ
い
ろ
な
旁
が
出
て
来
る
ん
だ
よ
ね
！

お
だ
っ
た
わ
ね
！

ち
よ
っ
と
の
ぞ
い
て
み
ま
し
よ
う
か
？
次
か
ら
ど
う
い
う
漢
点
字
が
出
て
来
る
の
か
。



〈「台」が旁になる字〉

治  ジ・チ、おさ-める・なお-す
(第二さんずい  + 台 )



胎  タイ、はら-む
(にくづき  + 台 )



志
ね。ものを載せるダイ、台風のタイだ

台



うてな
ダイ・タイ

〈「旨」が旁になる字〉

指  シ、ゆび・さ-す
(てへん  + 旨 )

脂  シ、あぶら
(にくづき  + 旨 )

詣  ケイ、もうで-る
(第二ごんべん  + 旨 )

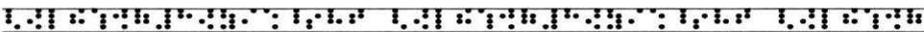


未
物事の意味を表している字よ。

旨



むね
シ
うま・い



〈「司」が旁になる字〉

- 詞 シ ことば
(ごんべん + 司)
- 伺 シ うかが - う
(にんべん + 司)
- 覗 シ のぞ - く うかが - う
(目 + 司)



未 司会者のシね。

司

シ

つかさどる つかさ

志 "詞" は名詞とか動詞とか、文法で使う字だね。

未 作詞作曲とか、和歌の詞書ことばがきというのにも使われる字よ。

志 「ご機嫌伺い」「進退伺い」：

未 "伺う" は、尋ねるの謙譲語ね。

志 そつと覗うかがう：

未 あ、ドロボー！

お 川上先生、こういう旁になる字をひとまとめにしてているのよ。

志 知ってるよ。

未、志 傍側ぼうそく基本文字！

未 そうね、これもやつぱり(基本文字)なのね。



(作 岡田・絵 吉田)

とつおいつ心いためて かゑりくる



道のほとりの コスモスの花



は せ が わ ぎん さく
長 谷 川 銀 作

とつおいつとは、あれこれ思い迷って決心がつかないような時に使う言葉です。心いためてとあるので思いのほかには迷いはあるのでしょうか。帰り道、夕暮れ時でしょうか、コスモスがいっぱい風に揺れている、細い茎の先の花の揺れに作者の心の揺れが重なります。コスモスはか細いようで意外に強い花でもありますので、結句(最後の七音)のコスモスの花、鮮やかです。

ねむりの中に ひとすぢあをき かなしみの



水脈あり そくに降る夜の雨



さいとう ふみ
斎 藤 史

このような一首を心象詠と言います。意識に浮んだ像を言葉にしてあります。水脈はこの場合はみおと読みます。眠りの中とは夢の中ではありません。もっとしんと深い空間のように思います。その無音の世界にひとすぢのあおい流れがあるのです。水脈とある事で溢れつづけ流れつづける尽きぬ流れを思います。かなしみのあおを湛えたその水脈に夜の雨が降ると思う時、作者の深いかなしみが伝わってきます。

編集後記 横浜ボランティア・フェスティバルへ、たくさんの皆様のご来場をお願いします。本会も日頃の活動を多くの方々にご理解、ご支援していただきたく参加いたしました。会場でお待ちしております♪。

《訂 正》 33号のP18の2箇所を訂正します。

誤→知ラン=正→正 誤→不ル = 正→不ルノミ



表紙絵 岡 稲子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。

次回の発行は12月15日です。

宇田川 幸子

‡ Eibrkwバージョン3.00について ‡

木下 和久

この度漢点字変換ソフトEibrkwをやや大幅に改訂し、これをバージョン3.00としました。ここで主な改良点について説明し、更に便利に使いやすいうように、キー割付の一覧表をご紹介します。

1. 旧バージョンからの主な改良点

(a) .ukaファイルの作成

従来、テキストファイルを変換すると、.txh、.txz、.txpという3つのファイルが自動的に作られました(.txpファイルはページ行に書き込みがある場合だけ作られる)。バージョン3から、更に.ukaファイルも作ることにしました。このファイルは、変換元となるテキストファイルと全く同じ内容のもので、拡張子が違うだけです。こういうファイルを作った目的は、この.ukaという拡張子をEibrkw.exeに関連づけておくと、ファイルを選択してエンターキーを押すだけでそのファイルを読み込んでEibrkwを立ち上げることが出来るからです。そうすれば、マウスを使わなくても、キー操作だけで簡単にEibrkwを利用することが出来、視覚障害者の方に使いやすいものと思われれます。

その使い方は、まずエディターなどで.txtという拡張子のテキストファイルを作って、その拡張子を.ukaに変えます。エクスプローラーでそのファイルを選択してエンターキーを押すと、このファイルのアプリケーションへの関連づけがまだ出来ていないときは、Windowsがアプリケーションへの関連づけを要求してきますので、指示に従ってEibrkw.exeに関連づけてください。その後は直ちに、そのファイルを読み込んだEibrkwが立ち上がります。また、このように.ukaファイルからEibrkwを立ち上げると、そのテキストファイルと同じ内容の.txtファイルも同時に作ります。

(b) 立ち上げ時の変換の実行

バージョン3では、Eibrkwがテキストファイルを読み込んだとき、まだ変換ファイルが出来ていないときは、自動的に変換作業を行って、常に変換済みの状態にします。前項で説明したように、.txtファイル1つを読み込むと、同時に.uka、.txhなど3種類のファイルが作られることになります。その上、更に次項で説明するワークファイルも作られます。

(c) ワークファイルの作成

これまでのEibrkwは、変換後のファイルをEibrkwの画面で編集すると、

直接.txh、.txzなどのファイルを更新していましたが、誤入力に気がついて元に戻そうとしても出来ませんでした。そこで、一般のエディターなどのソフトがやっているように、編集時のファイルはワークファイルとし、上書き保存の操作をして初めてもとのファイルが更新されるようにしました。これらのワークファイルは、アプリケーションの終了操作をすると、削除されます。また、更新前の.txtファイルは、.\$xtファイルとして保存されます。

(d) 編集機能の強化

この度のEibrkwの改良は、特に編集機能の強化に重点を置きました。編集機能のうちでカット・アンド・ペーストは、最も重要な機能ですが、旧版ではこれらの機能があまり充実していませんでした。

新版では、通常のコピーやカット、ペーストはほとんどエディターなどと同じように操作することが出来ます。範囲指定はシフトキーを押しながら矢印キーを使用して行います。残念ながら、マウスの左ボタンを押しながらマウスを移動させて、あるいはシフトキーを押しながらマウスで終点を指定するなどの範囲指定にはまだ対応できていません。範囲の始点を指定して、シフトキーを押しながら、HomeキーやEndキーを押すことにより行頭、行末（更にCtrlキーと組み合わせて文頭、文末）を終点とすることが出来ます。

2. キーの割付

Eibrkwの操作の大部分は、画面上部にあるメインメニューを使って実行できますが、そのうち主なものはコントロールキーと組み合わせて使うショートカットキーが割り付けられており、更にメインメニューにない操作も、キー入力によって可能なものがあります。これらは主として視覚障害者の方に便利のように設定したもので、音声やピンディスプレイ関係の操作が主なものです。

以下にキーと割り付けられた操作を、いくつかのグループに分けてご紹介します。

(1) メインメニューのショートカット

Ctrl+J	ジャンプ(通し行No.、ファイルページ、印刷ページを選択)
Ctrl+K	ファイルページ指定ジャンプ
Ctrl+L	印刷ページ指定ジャンプ
Ctrl+F	検索
F3	次検索
Shift+F3	前検索

Ctrl+R	改行マーク挿入
Ctrl+Enter	同上
Ctrl+P	改ページ挿入
Ctrl+C	コピー(一般のWindowsアプリケーションにも利用可)
Ctrl+X	切り取り(一般のWindowsアプリケーションにも利用可)
Ctrl+V	貼り付け(Eibrkwの点字画面からコピーしたもの)
Ctrl+Shift+V	貼り付け(一般のWindowsアプリケーションからコピーしたもの)
Ins	挿入モードに切替
F1	同上
Shift+Ins	連続挿入モード
Del	削除(範囲指定による複数削除も可)
Back Space	後退
Ctrl+Space	スペース挿入
Ctrl+B	スペース(*B)挿入
Ctrl+W	ページ行に同文挿入
F4	点字画面のテキスト保存
Ctrl+S	全ファイル上書き保存
Ctrl+U	バックアップ保存
Ctrl+H	テキストファイルを再変換

(2)メインメニューでショートカットのないもの

最初の項目は、Altキーとカッコ内の英字キーを同時に押すと選択されます。その後矢印キーで各項目を選択します。

ファイル(F) - 新規作成(N)

印刷(P) - 「点字印刷」、「変換画面印刷」、「テキストファイル印刷」を選択

編集(E) - 全ページ行削除

オプション(O) - 各項目設定のためのウィンドウを表示

保存(S) - 「点字テキスト名前変更保存」、「全ファイル名前変更保存」、「画面レイアウトを戻す」を選択

変換(H) - 「一太郎(Ver4)」、「点字テキスト(Win)」、「eibファイル変換」を選択

(3)メインメニューにないもの

【カーソル移動】

PageUp 前画面

PageDown	次画面
F7	次ページ
F8	前ページ
End	行末
Ctrl+End	文末
Ctrl+Shift+End	文末まで範囲指定
Home	行頭
Ctrl+Home	文頭
Ctrl+T	文頭
Ctrl+Shift+Home	文頭まで範囲指定

【音声その他の操作】

Shift+F2	校正読みとなめらか読みの交互切替
F5	RSポートオープン、同時にカーソル行を読む
Shift+F5	RSポートクローズ
F12	クリップボードの中味を最初から読む
Ctrl+F12	クリップボードの中味、次行を読む
Ctrl+Shift+F12	クリップボードの中味、前行を読む
Alt+F12	クリップボードの中味、最終行を読む
Ctrl+Alt+H	カーソル位置の文字の詳細読み
Ctrl+Alt+L	カーソル位置の右側を読む
Ctrl+Alt+K	カーソル行の行頭から読む
Ctrl+Alt+N	カーソル位置の文字のJISコード読み
Ctrl+D	EibrDicへリンク、範囲指定してあるときはその語を辞書で検索、結果を表示する(漢字の場合は読みを、かなの場合は漢字を)。範囲指定していないとき、カーソルが漢字の前にあればその漢字を検索

【数字キーとの組み合わせ、テンキーも可】

Ctrl+0 カーソル行のページNo.、行No.、全体を通しての行No.、総行数、テキストスペース(行頭のスペース個数)を読み上げる

Ctrl+1 WZへの復帰、 Ctrl+2 WZのカーソル行付近へジャンプ

【注】WZ関係は、WZエディタに専用のマクロがリンクされたとき有効

Ctrl+4	ピンディスのページ表示を印刷ページにする
Ctrl+5	ピンディスのページ表示をファイルページにする
Ctrl+6	テキストスペース1又は2を交互に変更
Ctrl+8	音声時計